

河上肇の直筆詩「同志野坂を迎へて」の公開について

早川 征一郎

2003年6月19日、大原社会問題研究所は、野坂参三氏の養女である野坂米子氏から、野坂参三氏所蔵の資料の寄贈を受けた。その資料とは、敗戦直後、野坂参三氏が中国から日本に帰国した際、河上肇博士から贈られた「同志野坂を迎へて」と題する直筆の詩である。この詩は、1946年1月17日付の日付であるが、時に博士68歳、亡くなったのが1月30日であるから、まさに絶筆となった詩である。この詩は、1月26日の「野坂参三歓迎国民大会」で披露されたあと、2月8日付けの「アカハタ」再刊15号に写真入りで紹介された。

きわめて貴重な資料であるため、本誌直近号で紹介することとする。河上博士直筆の詩は、その後、野坂家によって掛け軸として表装されて保存されていた。このたび頂いたのはその掛け軸である。ただし、本誌では紙幅の関係で、直筆の詩の部分だけ、写真で紹介することとする。掛け軸になった原資料の全体については、大原社研のWEBサイトにおいて公開しているので、そちらを参照されたい。なお、やはり紙幅の関係で、この詩の活字での読みについては省略する。この詩はあまりにも有名で、いくつか紹介があるが、さしあたり『河上肇著作集・第11巻』（筑摩書房、1965年）221～222頁を参照されたい。

大原社研のWEBサイトには、河上肇の櫛田民蔵宛の書簡をはじめ、ほかにも直筆のものが公開されている。具体的には、WEBサイトの「大原デジタルライブラリー」を検索されたい。

<http://oisr.org/mc/hajime.html> または
<http://oohara.mt.tama.hosei.ac.jp/mc/hajime.html>



大きさは、タテ175mm x ヨコ685mm